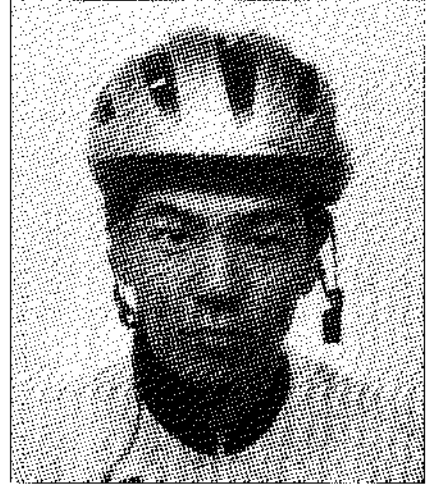


人物紹介



長尾 勇治 (ながお ゆうじ)

今治市枝堀児童館 児童厚生員
 (児童厚生員一級指導員)
 日本マウンテンバイク協会公認B級
 インストラクター
 いまばり「風の顔らんど・小島」
 運営委員会事務局長

今治市の児童館における マウンテンバイク活動の 実践について

1. マウンテンバイクって、 一体なに?

マウンテンバイクとは、デコボコの山道を走行することのできる自転車、丈夫で頑丈なフレーム・太いブロックパタースタイヤ・18〜24段ギヤ・強力なブレーキシステムが装備されています。

このマウンテンバイクに保安部品などを取り付けているマウンテンバイクの自転車に、児童館に遊びに来る小・中学生の大多数は乗っています。私はこのことに着目し、児童館活動の一つとしてマウンテンバイク教室を行うことになりました。

2. 教室開催までの数ヶ月の道のり

企画から運営に対して、児童厚生員の本領発揮!

①室内に閉じこもりがちで、体力や運動能力の低下

②自然とふれあう機会が少なく、自然を保護する気持ちや、環境意識が薄い

③少子化や両親の共働きにより、異年齢児や家族の交流、関わりあえる場の減少

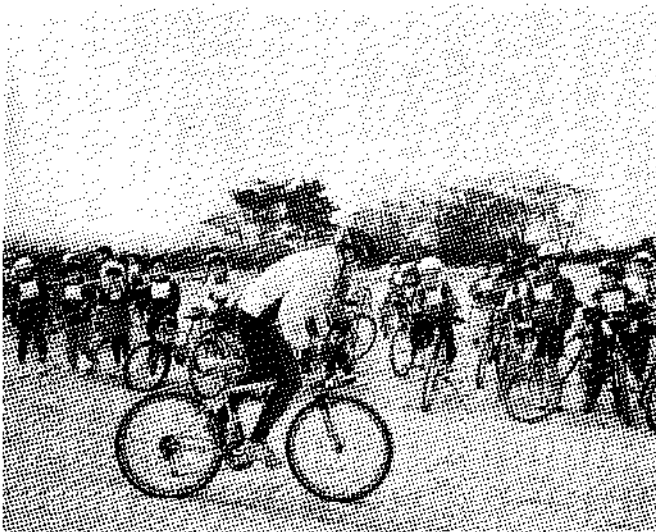
これらの問題について、マウンテンバイクを通じて健全育成が達成できるように、教室の企画を行い、市担当課に予算計上したところ平成8年11月に第1回目の教室を開催することが決定しました。

しかし、私自身マウンテンバイクの指導技術はなく、日本マウンテンバイク協会へインストラクターの派遣を依頼しました。

また教室参加者の自転車の整備点検、アクシデントの対応などについては市内のサイクリング協会へお願いし、快く引き受けてくださいました。

会場は市街地から車で15分程度の場所にある近見山山頂付近の広場で行うことになりましたが、この近見山は国立公園2種指定区域のため会場整備は手作業となり、児童厚生員とボランティア数名で草刈り作業などを行い、無事教室開催までこぎつけることができました。

▼インストラクターの先生がお手本で、「スタンディング」という技を披露
 ブレーキとバランスでその場に止まり、どれだけ長く足をつかないか。
 さーみんなは何秒できるかな?



3. まちにもったマウンテン バイク教室開始

当日は天候にも恵まれ、小学一年生から大人までの教室参加33名と、保護者が集まっ

くれました。
マウンテンバイクについては原則として持ち込みですが、児童館でも教台購入しているのを貸出しして、誰でも気軽に参加できるようにしました。

教室の内容については、日本マウンテンバイク協会のインストラクターや、サイクリング協会の方々の丁寧な指導のおかげで、自然の中をマウンテンバイクにまたがり、違う学校、学年の友達や、親子で楽しみながら元気づく走っていました。

また教室の最後に、学年別の記録会をしたところ、子ども達は大変盛り上がりました。

それは、順位とタイムが出るからです。子ども達はこの順番と記録にこだわり、「生懸命コースを走っているのが印象的でした。

アンケートでは「楽しかった。また次回も参加したい。今度はジャンプやウィリーのやり方を教えてほしい。もっと速く走れる方法を知りたい。」など書かれてあり、教室中の子ども達の表情を思い出し、今までの苦労が報われました。

4. 地域の方々による、今治ジュニア・マウンテンバイク普及協議会設立

平成9年度になり教室も3回目を迎え、参加者も徐々に増えていくなか、主旨を理解してくれた市内のライオンズクラブの協力を得て、マウンテンバイク愛好者、参加児童の保護者、サイクリング協会、児童館ボランティアなどの団体・個人の加入により今治ジュニア・マウンテンバイク普及協議会を設立することができました。

発足後は、児童館から発信していたマウンテンバイクを通じての健全育成活動に、地域

全体で注目し取り組んでいたできるようになり、教室開催にあたっては、参加者への募集方法の改善や、内容の再検討など、課題や問題点を協議することによって、一つの大きな夢ができました。

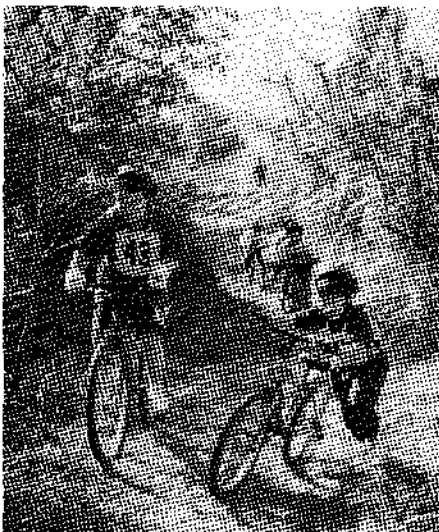
それは、教室参加者が練習の成果を発表でき、また初参加の子ども達でも1日マウンテンバイクを楽しめるフェスティバル（大会）の開催です。

予算面で厳しい現状でしたが、ライオンズクラブの全面バックアップを受け、11月に開催することができました。

子ども達はレースやゲームにチャレンジしましたが、やはり順位とタイムに執着し、1位になった子どもは満足そうで、なれなかった子どもは来年は自分が優勝できるように頑張るぞと口を輝かしていました。

5. これからのマウンテンバイク活動にかけるそれぞれの思い

協議会では年3回の教室と、1回の大会を開催していますが、複数回参加していて、内容に物足りなさを感じはじめた子ども達のた



▲ジュニア・マウンテンバイクフェスティバルでのレースの1コマ。しり板では、マウンテンバイクから降りて押して上がる子も続出。乗ったままか、降りて押すのか、どちらが速く上りきれるのかな？

めに、毎月1回の練習会を行い、もっともつと上達する場を提供しようという意見がだされました。この練習会を基盤にして、マウンテンバイクをスポーツ少年団という位置付けにできればと考えています。

また、米春完成の西瀬戸自動車道しまなみ海道開通後は、日本初の本格的な西日本規模ジュニア大会を開催したり、マウンテンバイク活動を行っている広島県府中市こども国POMさん達と、しまなみ海道サイクリング交流会を実施する予定です。

最後に、児童厚生員の私自身が、子ども達にマウンテンバイクの楽しさを伝えることができるように、日本マウンテンバイク協会の公認B級インストラクターの資格を本年3月に取得しました。

今後は県内外の児童館をはじめ、今秋オープンするえひめこどもの城内のマウンテンバイクコースで出張教室を実施します。

なお、11月に開催する「やつちやるけん児童館・児童クラブ」全国大会2日目のこどもの城見学の間でも教室と競技会を開催しますので、全国大会に参加される皆さんは、ぜひ見学して帰ってください。

皆さんの児童館や地域でマウンテンバイクを使って遊んでみようと思われましたら、枝堀児童館までご連絡ください。マウンテンバイク持参でお邪魔させていただきます。そして子ども達と一緒にマウンテンバイクにまたがりおおいに楽しみましょう。

お問い合わせ先

〒794-0035

愛媛県今治市枝堀町1丁目4-1

枝堀児童館 ☎(0898) 32-2539